

## 引っ張っていける人間同士がくっついて進む交流

神戸市長田区の「野田北部まちづくり協議会」は、養父市の岩崎集落との交流を進める。事務局長の河合節二さんは、「有志がマイクロバスで岩崎の秋祭りに行くのが恒例」という。

岩崎からも野田北部の夏祭りに来る。野菜や米の即売会をするのだとか。今では手製のお酢や梅シロップまで登場する。「集落は普段住んでいる環境と全然違う。イベントの内容も見かけないもの。刺激が交流の魅力」だという。

発端は、岩崎に入っていたコンサルタントの松原さんの「一度遊

びに行つては」との誘い。その後、岩崎の上谷さんと野田北部の会長が意気投合。交流が続いている。「この前、上谷さんから会長に『鹿が取れたのでおいで』とお誘いがきた。次の日には会長ら3人がお邪魔して解体作業から一緒にやった」と笑う。

河合さんは、「農作物をつくつてもその集落で消費しきれないなら、都市部に流通させるのが良い」という。

一方で、集落に迷惑をかけないように気をつけている。「岩崎が我々のために余分につくつたり

すると迷惑になる。負担にならないようしている」という。

「岩崎の上谷さんと野田北部の会長が人間的に合うから」交流が進んでいるとのこと。「上谷さんは本当に多種多様な人。うちの会長も何でも飛びつくタイプ。引っ張っていける人間同士がくっつく方向性が見える」と語る。



岩崎との交流について語る河合さん